

平成 26 年度 焼津市自治基本条例 まちづくり市民集会 大ワールドカフェ

～つながる話題カード「焼津の未来と自治基本条例について語り合おう」【班ごとのまとめ】

平成 27 年 3 月 15 日実施（焼津公民館・大集会室）

【1 班】

- 「居場所づくり」に関心がある。何ができるか考え中。 ・河村さんのように若い方がまちづくりに興味を持って来てくれてうれしいし、期待している（私もがんばるぞ） ・条例の中から具現化しているものを提示してくれてわかりやすかった。 ・地方自治の中にはメリット・デメリットがあるので、どこかで調和をとる事が大事（松下先生の話）
- 公共性の高い企業への補助のあり方。 ・タイトル名をあえて変わったものとする
 - ・子どもに対して、学校とからめて条例教育をする。 ・財政負担のないまちづくり（例：情報共有、退職者・学生参加）
 - ・気軽に参加できる方法（現役世代）
- 「市民みんなの力を引き出していくまち」にしていかなくてはならない。 ・行政の力だけでは限界がある。 ・お互いをする機会、歩み寄りをする機会を作っていくことが大事
 - ・定住人口の減少＝税収の減少という危機感を共有する。 ・市民のレベルが高い
 - ・「出番作り」もっと知りたい
- 市民 1 人 1 人ができることをすること。0 か 100 かではなく、それぞれの良い所を知ることができる機会があること ・物事を決めるためには、まず参加者の長所について知る必要があるということ ・居場所づくりから出番づくり、地域の人材の活用を進めてほしいという言葉が印象に残った。地域力＝人材力
- なかなか表に出ない事業者の苦勞が聞けた。それに対しての地域住民の理解を知った。
 - ・居場所作りに出番作りの必要性。 ・安心して徘徊できる街作りは前の業務で実現を考えていたが、異動で叶わず残念。

〈書き込み〉

◎子どもと自治基本条例、足りていない？

【2 班】

- 河村さんの事例のように、焼津市外から焼津市に転入してきた方が、市民主導のまちづくり活動に参加されるケースがたくさんある様に感じます。このような方たちが活動できるような環境をととのえることも必要だと思いました。“外からみた焼津の魅力”に着目。
- 子どもの頃から焼津の街にただよっていた魚のにおい、成長するにつれて「ふるさとのにおい」として私にとってなくてはならないものになりましたが、「かつお節」づくりがこんなにもいろいろな環境の問題を抱えていたことを知り、やいづの自慢のかつお節が、これからも特産物としてありつづけるために、どうしたらよいかと考えるきっかけとしたいです。焼津に長く住んでいても知らないことがまだまだたくさんあることを改めて感じました。
- 松永さんの東益津地区は事業者、学校、地域が一体となってやっている。みんながつながるのはよいと思うが、強いつながり、弱いつながり、いろいろなつながりがあっても良いと思う。

トマル水産の大石さんは、大きな課題があり苦戦しているが、まちづくりに積極的に参加していきたくて言っていた。ありがたいことだ。松下先生の話。自治基本条例ができたならそれで終わり→そうではなくて絵に描いたモチにならないようにすると言われたようだ。条例をちゃんと遂行して欲しい。続けていく。これを活かしていく事。最後に、皆さんのより良くしていきたいというパワーの源、パワーを支えているものを知りたいし、教えてもらいたいです！

○トマル水産の大石さんの話で出た、出掛ける工場（アウトリーチ）は、他の分野でも仕掛ければ良いと感じた。（注文）来年には18歳以上が選挙権を得るので、市議会もアウトリーチを心掛けて低投票率を底上げすべし。松下先生の話の②出番づくりの後押しが必要であり、組織作りの専門家を地域に派遣する制度があれば推進できると考える。動機づくり。

○大石さんのご苦勞。鯉節製造時における鯉解体時の血水の処理及び燻製時の煙の匂い、企業として市民の影響を抑えるため取り組んでいかななくてはならないが大変な問題だと思う。大石さんだけの事でなく、焼津の水産加工業者（全体ではないが）でまだまだある問題だと思う。

○地域のコミュニケーションの重要性を改めて感じました。まずは行動に移す事が大切だと思います。小さな一歩ですが、踏み出す事で大きな輪になり、焼津市にその輪が沢山できて、一面になる様、市民の皆様と楽しみながら進めて行きたいと思います。

〈書き込み〉

◎参加。気軽・気楽な出番づくり

【3班】

○松下先生という言葉：活動情報の共有 ・大石さんの活動：カツオブシ工場の見学受け入れ
焼津市民が焼津市のことについて、今まで以上に詳しくなると、自然と意識の高い市になっていくと思った。

○居場所作り・出番作りの具体的な事例・提案・アイデア等知りたい。

・互いの活動を知る→ネットワークが広がる。例えば工場見学などができる。文化、食育等、継承につながる ・「春・里山はく」に興味がある。道路整備に伴い、自然がなくなった感が強い。めだか、つくし、れんげ、よもぎまでも。自然に恵まれた焼津のイメージをなくしたくない。広い空も（電線がじゃま）。歩行者、自転車にもやさしい街になってほしい。特に高齢者、障害者が歩きやすい街作りを。自主運行バスの運行をもっと便利に！

○焼津は「大」をつけるのが好きという話。たしかにそうだと思います。 ・各地域での取り組み。各地域での特徴があるのではないかと思います。 ・事業者として、焼津ブランドをアピールするとして、継続していくことの大切さ、大変な苦勞があることがわかりました。
・誰も一人ひとりできること。焼津のよいところをもっと見つけたいと思いました。

○河村さん「1人1人生きていることがまちづくり」に共感。むずかしいこと、カッコいいことだけでなく、自分の暮らしの中で困っていること、もっと良くしたいことを、自分自身で、またまわりの人と協力して解決していくことが「まちづくり」になるんじゃないかな！

〈書き込み〉

◎企業と市民の距離が遠い

◎焼津市にはたくさんの市民活動団体がある。その人たちが敷居を下げて、いろんな人が参加しやすくなるといい。 ex.やきつべの里フォーラム「来れるときだけ来てくればいいよ」「それまで俺たちががんばるから」
他者に寛容になる。そんなまちがいいなと思います。一度かかわった人の縁を大事にする
発表された方が自然体でよかった

【4班】

- 皆さん素晴らしい取り組みがされているので、もっと多くの人に知ってもらえる機会があれば良いと思う。地元の福祉大学にゲストスピーカー等で来ていただきたいとも思いました。居場所だけでなく「出番づくり」は大変重要なキーワードだと思います。受け身だけでなく、「力」を活かす仕組みづくりについて、考えていきたいと考えました。
- 共通した点として「継続」がポイントと感じた。続けることが大事。そして難しい。少しずつ進められたらと思う。 ・「ネットワーク」、人と人との結びつき、人との出会い、仲間づくり。出会いの場の提供がより多くあればと思う。
- トマル水産、日本や焼津が環境をよくする為にお金がすごく必要に驚きました。焼津の水産業も大変なんだなあ。中国の女性が一時帰国の時、小学校の生徒に日本のゴミ処理の話聞かせてほしいと頼まれ、話をしたと聞きましたが、私達は環境を守るために企業もすごく苦労していることを知りました。個人でも気をつけ、きれいな街作りに気を配りたい。
- 自治基本条例は中小的なものではなく、市民の具体的な活動のための土壌となっているものであること。 ・市民という概念は、外国人や通勤・通学者も含まれているということ。 ・公民館が活動の拠点になっている。
- 1.東益津の市民が町づくりに積極的に関わっている事が分かりました。 2.外国の人も親切心があり、親切を頂いた方は幸福感を受ける事を感謝する。 3.事業者は地域の環境作りに神経を使っている事が分かった。 4.焼津市に愛着を持つ様にイベントを企画・実行している。 5.市民が実感できるしくみの中で、予めテーマを決めて方向性を出したら良い。

【5班】

- 地区役員として、大人の行事、女性の行事、子供の行事に参加しているが、大人や子供がいっしょに参加できる行事を作っていくことが必要だと思った。 ・事業を行っていく上で楽しい事が大前提であり、同じ楽しみを共有する仲間づくりをしていきたい。
- 地域コミュニティが子育て・高齢者対策・災害対策に、携わっていく仕組みは、今後の少子高齢化・人口減少社会にあっては、とても大切。 ・幼少期からまちづくりに関わっていくことにより、焼津が好きになり愛着をもてることとなり、将来にわたって焼津に住んでいこうという気持ちになれる。そのような仕組みを作り、より多くの人に参加してもらう。そんな制度をつくりたい。
- 市役所、警察、市民と一緒に防犯活動に取り組んでもらった。防犯、防災、まちづくりで下段を作ったが、焼津市になったら市の水道料等も…なくなり、花壇もそのまま…

- 東部コミュニティの活動内容に敬服しています。専門部、各々の活動も活発。高齢化社会対応するコミュニティづくりも着手している。ここの老若男女の地域力を手本として見習いたい。
- ①大石さんの事業主としての取り組みで、地域貢献する一方で、汚水、異臭の問題と地域理解のそう反する問題は、同じように事業をする仲間として胸が痛みました。何かいい方法はないものか。②松永さん達の取り組みの苦労話をもっと深いところであかってみてみたいと思った。③松下先生から…お互いの活動を知る機会をつくる（情報の共有）→新しい発見がある。今回色々な活動をされている人達がいる事を知り、知る事（おどろき）が大事と痛感した。発信する（情報）機会がなければ→自治基本条例につながる。

〈書き込み〉

◎中学生の参加

【6班】

- 基本条例が市民の活動を支えるものとして位置付けられる。 ・お互いを知る機会を作ることにより良好な解決策ができると思う。 ・市民が実感できる提案をして行きたい。
- 事業者→焼津の歴史・文化そのもの ・地域コミュニティの関係・住民のきずな
・お互いの活動を知る→動き出すきっかけ
- 安心して暮らせる街作り、安心して徘徊できる町づくりの言葉を聞いて、ますます住みやすい町作りに何かに協力したい、自分には何が出来るか考えよう。
- 目指すところは、市民の自立と自律→市民力が一番 ・東益津の事例はモデル地域になるのでは（市民活動団体が沢山存在→連携している） ・地縁コミュニティと公益コミュニティが上手く連携とれると自治基本条例が生きてくる

【7班】

- 「後押し」の仕組みづくりが大事だと思いました。特に若者たち。何かやりたいと思いながら、きっかけを見つけられずにいる人たちは多いと思います。以前、条例づくりに関わった人が「市民を大人にする自治基本条例」と。名言ですね！
- 自治基本条例という初めて聞く会に参加して、何を話すのだろうと思っていましたが、地域のこと、自治会のこと、いつもの生活が全て小さいことから大きなことまで条例に関わってきていると感じました。 ・焼津のかつお節には、たくさんの想いがあるのだと感じました。
・焼津駅前をにぎやかにしたい。人の集まる場所にしたい。
- 老人人口が増加していく中、いかに「いきがい」を各々が見つけていけるか。
・「地域の活性化」が「市の活性化」につながっていくかが大事に思います。
- 東益津公民館における地域コミュニティの活動は、地域住民が主体となって行われており、すばらしいと思いました。今後、“定住人口の維持”は重要な課題となるため、これらの活動をどのようにつなげるかが大切だと思いました。
- 松下先生の、お互いの活動を知ること・出番を作ることの大切さがよくわかりました。役職・肩書きに関係なく、一(般)市民が輝けるまち、活躍できるまちになったら良いと思う。

焼津市民だということに誇りを持てるように！

〈書き込み〉

◎自分のことだけでなく、他者のことも気にかける世の中、自主性

【8班】

○私は、今日はいじめて参加させていただいて、色々お話が聞けて、よかったです。また参加したいです。

○地縁コミュニティの高齢化とその限界を感じており、東益津公民館の取り組みに関心があります。小川公民館でも同じことはやっているのですが、やっている人、趣旨が違うように思う。また、地縁コミュニティの疎外性があり、公益コミュニティとの協働が成功することが大事である。すべての人が出番のある街っていいねと思った。

○これからの居場所づくりは、必要性を強く感じているが、地域コミュニティを担う人材が育っていないので、これからの養成が大切となっていくと心配している。 ・小さな親切野積み重ねが大事です。それが自立と自律につながると思う。 ・かつお節づくりの厳しさ、ご苦労が分かり、焼津人としてかつお節を誇りに思う気持ちがうれしい。応援したい。 ・市内には知らない勉強会グループが活動している。色々ある。もっと知りたい。60代後半（団塊世代）も参加できるものがあるのですが、情報発信して欲しい。 ・居場所づくりもいろいろ、出番づくり（発表、ボランティア）を具体化したい。

【9班】

○トマル水産・大石さん、できることは何でもやろう→地域の発展、恩返し ・まちづくりのヒントを得るために皆の想いを知り、お互いの活動を知る機会をどんどん得る。 ・難しい言葉ではなく、市民が実感できるわかりやすい提案。 ・市民同士の対話を大切にすること。 ・市民同士の対話を大切にすること。 →自分に何ができて行動に移せるかがわかってくる。

○安心して子育てができる街づくり。事業者の活躍と地域貢献（周辺のゴミ拾い、草取り等。安心して徘徊できる町になるといいですね。継続的な会議の開催

○焼津に住んでいる、関わっている人みんなが市民という考え。 ・事業者の役割も条例に入っているのがとてもよいと思いました。 ・お互いの活動（興味のある事）を知る機会にまずはこの「大」ワールドカフェがその役割になることを期待します。

○トマル水産のお話は大事なことと思います。工場見学、学校へのお出張等、感心しました。

・基本条例を多くの市民に知らせる事は大切だと思いますが、良い方法は？ ・居場所作りは聞いていましたが、出番作りということですか、なるほどと思いました。

○事業者としてのまちづくりへの取り組みと。焼津の文化・伝統を受け継ぐために、次世代にまちづくりに貢献する事業者の活動としては大事であると思いました。

〈書き込み〉

◎お年寄りの出番作り、教える役割を担う。つけもの、煮豆

◎ゴミの不法投棄

◎焼津あったかい

【10班】

- 介護予防の活動、認知症の方が安心して暮らせる社会をつくるためには「地域の力」が必要不可欠で、市民と行政の連携が大事である。その中で特に、お年寄りの「出番づくり」は、今後いろんな場面で機会をつくる必要があると思った。
- それぞれの立場で、様々な方々が「まちづくり」に関わっているんだと知らなかった。「まちづくり」って、行政やNPO、JCが考えるものではなく、もっと身近なものなのかも。
 - ・『焼津でかつおぶしを見た事がない子がいちゃいけない』って言葉に、はっとした。
 - ・本条例は、ここに来るまで聞いた事もなかった。土壌作りであり、活動を裏付け、後押しするものとの事だが、どう利用し、どう広めていくか検討しないと作って終わりの無駄なものになるなーって思った。正直、そうなりそう。
- 東益津公民館の大勢の皆さんの参加と充実した内容に感心しました。
 - ・小さい時から魚とかかわって来ましたので、以前の様に鰹節産業の発展を期待します。頑張ってください。
 - ・初めて参加させていただき、自治基本条例さえわかりませんが、先生のお話、皆さんの熱い発表に感心しました。
- 松下先生の「安心して暮らせるまち」というお話の中で“安心して徘徊できるまち”というお話は大変良い事だなあと思いました。焼津も今後、(自分も含めて)年寄りが多くなっていきますが、地域で見守っていく体制、それを市が支える体制が、これからますます必要になってくると思います。また、徘徊する前にお年寄りが気軽に立ち寄れる場所があると良いと思います。その場所では知り合いと世間話ができたり、軽い食事が出来たりできると良いです。
- Q1.市民のつながりをどのように作っていくのか？(1人が10人、100人、1000人とつながる仕組みづくりの方策) Q2.市民の声を議員、市長等へとつなぐ仕組みは? Q3.市民のみなさん多くが参加していることの確認方法は?(参加個々人の名前が判別できる方法) Q4.「まちづくり市民集会」の評価判定をするのか?

【11班】

- お互いの活動を知る機会を日頃から設けること。決められた課題を設定すると、そのことしか話題とせず、なぜその人がそう思うのかわからないことが多いので重要だと思う。また、市民が実感できる提案ということで、提案するとともに、活動しているということをPRすることが大切だと思う。カーブミラーの清掃など。
- お互いの活動を知る事。情報共有の大切さが大事
- 松下先生のお話の中で3つの大切な事 1.互いの活動を知る新しい発見 2.出番づくり 3.市民が実感できる提案ということで、このような機会を作り、多くの人の参加できる結果の出るような事をする。4つの市民の話の中で、地域コミュニティは地元なので、良く理解できました。事業者の方も大変困っている事(環境の事)も理解できました。